

相次ぐ発覚、不安拡大

フェロシルト

住民「早く撤去を」

瑞浪などで井戸水調査

フェロシルトの新たな埋め立て場所が県内で相次いで発覚し、周辺に暮らす住民からは驚きと、今後の生活への影響を心配する声が上がった。

公表すべきだ」と憤る。

瑞浪市陶町では、住宅地と話しした。地約二角約二百平方メートルに埋め立てられていた。隣は県の調査結果を待ちに待つ夫婦は「怖い。どい」とするが、六価クロムが検出された同市稲津町では、希望する住民にと、二年ほど前に埋め立てが行われたという「早く撤去してほしい」と訴えた。地元瑞浪市議の会長金尾は「工事の際、業者から自治会には事前には何も知らされなかった。業者は情報をすべて」



フェロシルトが使用されたと思われる住宅団地内の空き地を訪れ、土をチェックする市職員(瑞浪市陶町)

本県市は、砂利採取が行われた同市早野の農地約九千平方メートルのうち、東側の麦畑約三千六百平方メートルが、フェロシルトで埋め戻されたとみて、市が十四日に中央村

近を試掘した結果、地中に一・五センチのフェロシルトの層を確認し、三センチの層が確認された。この層から環境基準の約三倍ものフッ素も検出された。

放射性物質 住民と行政、認識に差

放射性物質の質を含む製品に運搬や使用に規制はなく、今回の「フェロシルト」の使用が県内でも次々と明らかになり、県と製造元の石原産業がフェロシルトの使用を把握し切れていない実態が浮き彫りになった。

放射線量なので、廃棄物かどうかの判断とは関係ない。さらに有償で取り引きされておき、廃棄物とみなすのは考えにくい」とする。県も「放射性物質を含んでも基準値以内なら健康には問題がない」と説明する。

フェロシルト 酸化チタン。製造過程で生まれる廃棄物を基にした製品で、石こうと酸化鉄が主成分。ウランなど微量の放射性物質も含まれる。土地造成時の埋戻し材として、2001年から東海3県で販売され、三重県が03年、リサイクル製品に認定し、使用を推奨していた。住民の反発を受けてすでに製造販売を中止し、認定も取り消されている。

一方、行政は放射線量と廃棄物の判断基準は別問題としている。環境省は「今回の場合は微量の放射性物質は産廃として処理すべきだ」と主張する。

十六、十七日には同市職員が周辺の約百二十戸を訪ね、現状を説明。すでに付近の民家二件で井戸水を調べているが、今後は対象戸数を増やし、月内に実施する。現場近くに柿畑と水田を持つ六十代の男性は「この辺りは富有柿の産地で、食の安全に関してイメージが悪くならないか心配」と話した。

団体代表の兼松秀代さん(五十)は「たった二、三年前のことでも、どこに埋めたか分からなくなってしまうような扱いは心配だ。安易にリサイクル品としたことが野放しの状態をつくった」と非難している。